

# 仙台総合ビジネス公務員専門学校

## 令和5年度学校関係者評価委員会 報告

学校法人菅原学園 仙台総合ビジネス公務員専門学校では、本校規定に基づき、令和5年8月3日に、学校関係者評価委員会を開催いたしました。内容につきましては以下の通りご報告いたします。

今後の教育活動や学校運営に反映させるべく、各委員からのご意見やご指導を真摯に受け止め、教職員一同努力してまいります。

1. 日 時：令和5年8月3日（火）15：00～16：00
2. 場 所：仙台総合ビジネス公務員専門学校 503教室
3. 出席者

### 【令和5年度 学校関係者評価委員】

	芳 名	所 属 団 体	備考	出欠
1	関口 秀之	菅原章博税理士事務所	経理ビジネス科	出席
2	上田 佳子	株式会社うえだ	販売ビジネス科	出席
3	佐藤 真弓	株式会社ハナサク	フラワー科	出席
4	加藤 未怜	株式会社ハナサク	フラワー科	出席

### 【学校教職員】

1	菅原 崇博	校長
2	梅川 明寛	副校長
3	熊倉 正浩	経理ビジネス科 科長
4	佐藤 僚	フラワー科 科長
5	澤田 裕樹	販売ビジネス科 科長
6	佐藤 結衣	経理ビジネス科 教諭

### 4. 次第

- (1) 開会
- (2) 開会挨拶 校長 菅原 崇博
- (3) 委員紹介
- (4) 議長選出 議長 上田 佳子
- (5) 令和4年度自己評価報告 佐藤 僚
- (6) 討議・意見交換
- (7) 新学科について 熊倉 正浩
- (8) 閉会挨拶 副校長 梅川 明寛
- (9) 閉会

## 5. 令和4年度自己評価結果とご意見に対する対応

自己評価報告について説明をし、各委員からの意見をいただいた内容は以下の通りです。なお、【          】は自己評価報告の項目となります。

### 【教育理念・目標】

理念や学校教育目標をすべての教職員が理解し、知識・技術だけではなく「自己学習能力を持つ社会人」として必要な基本様式を身につけることを目標として取り組んでいる。社会ニーズに適した実践的な職業人を育成するため、今まで以上に企業との連携を図り、最新技術等をカリキュラムに取り入れることで、教育の向上へ繋げることが必要となる。また、学生保護者に対して、高校訪問、出張授業やオープンキャンパスのみならず、WebサイトやSNS等を利用して地道に学校の学習分野を分かりやすく知らしめる努力が継続的に必要である。令和5年度募集より学科変更、コース編成ではなく専攻をし、社会のニーズに依合させた学科変更を実施済みではあるが、将来を見据えたうえで、時代の変化に合わせた新たな学科編成等の提案も今後引き続き必要となる。

### 【学校運営】

情報システム化等による業務の効率化を目的に、学籍管理や出席管理、学納金の入出金状況の確認を一括で管理が可能なシステムの導入を図る。学生向けにも、ペーパーレス及び効率化を図るため、学園ポータルサイトの準備を進め、求人票の閲覧、時間割、スケジュール、各種申請手続き等に対応を検討。

### 【教育活動】

授業評価に関して、外部団体、企業に評価依頼をすることで、更なる「教育の質の向上」を図ることが可能。また、学生による授業評価や、学生自身による自身の習熟度を評価する自己評価制度を検討していく。

研修に関しては、先端的な研修、能力開発研修等の情報収集をし、積極的に参加する。新型コロナウイルス感染状況をふまえ、オンラインによる研修会が増えている中、学園内・外、研修会の実施や参加を積極的に行っている。

### 【学習成果】

就職率・資格取得率は、クラス担任が中心となり個人面談等で個々の学生の状況を常に把握し、学生課、菅原学園キャリアサポートセンターと協力しながら学園全体でも向上に取り組んでいる。退学率低減に向けて、入学後にミスマッチのないように、入学前に保護者も含めた面談を実施し、学生に合ったサポートをする。在学中は、保護者と連携しながら、必要に応じてスクールカウンセラーとの個人面談の実施、非常勤講師との情報共有をし、個々の状況に応じた対応を継続していく。

### 【学生支援】

少人数制の利点を活かして、学生の入学から卒業までの各種支援を担当が中心となり行っている。ただし、学生の多様化により担任業務の増大し、求められているスキルも増えている。担任だけではなく各部署との連携を強め、一人ひとりの課題（基礎学力不足、学習障害、経済状況等）を明確にして、対応できる支援体制の運用をしっかりと行う。スクールカウンセラーや専門機関と連携しながら支援を行う。

一部PCをリニューアルし、学生満足度が向上し有効活用できている。就職活動を行う上で今後も必須となるWebによる説明会・面談に対し、キャリアサポートセンターと連携しながら指導を行う。

学園で物価高に対する経済対策支援事業を活用した学生支援で、QUOカードを学生へ配布することができた。

### 【教育環境】

PC設備に関して、6階PC教室を最新PCにリニューアルし、5階PC教室もリニューアルに向け準備中。

宮城県が主催したシェイクアウト訓練に学科ごとに参加したが、避難訓練を行い、連絡網や備蓄について再検討が必要。防災の心得を修得した。

### 【学生の受入れ募集】

入学相談室、IR室と連携し、学校外の広報活動として進路ガイダンス、模擬授業、会場ガイダンスなどを実施している。学校内の広報活動として、オープンキャンパス、個別相談会を実施し、その他に、来校不要なZoomによる個別相談会、LINEによる個別トークを実施。広報活動として「Webサイト」「SNS」等を利用して、教育内容、成果を提供するためにWebサイトのタイムリーな更新を行い、高校生に届く、より効果的な広報活動を実施していく。

### 【財務】

職業実践専門課程の一部として学園のHP上で財政状況を公開している。

### 【法令等の遵守】

法令・設置基準の遵守と適正な運営を行っている。

自己評価結果はホームページ上で公開している。

### 【社会貢献・地域貢献】

令和5年4月、専門実践教育訓練の指定講座として、経理ビジネス科、フラワー科が認定を受けた。

## 6. 討議・意見交換

<菅原章博税理士事務所 関口様>

【学校運営】の『情報システム化等による業務の効率化が図られている』が、③で評価されているのは、オンラインだったら④に評価が変わるということですか？

<フラワー科 佐藤>

ただ単にオンラインになったからといって④になるわけではなく、例として、学生が在学証明書といった証明書の発行依頼を申し込む際に、現状のように申請書に記入して申し込むのではなく、オンラインによる申し込みが可能であったりと、デジタル化、さらにはDX化に近いような形で個々の業務の効率化が可能になった時に、④に評価と考えております。

<副校長 梅川>

学園組織の中でIT委員会があるので、学校の要望として意見をまとめて提案をし、IT委員会と連携をしていきたいと思っております。

<菅原章博税理士事務所 関口様>

【教育活動】の研修に関して、以前から評価が③のような気がしますが。

<フラワー科 佐藤>

コロナ禍の際は、対面による研修も少なく、WEBの研修等が多く行われておりましたが、少しずつでは少しありますが対面による研修も増えてきており、学園からも研修の案内をいただいておりますので、忙しさを理由にはせずに、積極的に各自が参加するように変えていきたいと思っております。

<株式会社うえだ 上田様>

私自身も外部講師として、スキルアップの為に積極的に参加していきたいですね。

<株式会社ハナサク 卒業生：加藤様>

【学習成果】の退学率について、私が在学していた時も同じクラスの男子で退学した人がいました。女子が多い中で大変だったかは本人しかわかりませんが、登校していない日が続いた時には心配で先生に聞いたこともありました。私の時は佐藤先生が担任だったので、退学した男子の学生をはじめ一人一人をしっかり見てくれ、サポートをしてくれていたのので、引き続き頑張っていってください。

<フラワー科 佐藤>

ありがとうございます。業界的には女性にイメージの強い仕事ではありますが、実際には業界の方や企業訪問をさせていただいた時にお話を聞かせてもらおうと、6割が男性ということでした。業界的に有名な方というと男性で有名な方が多く、デザイナーや店長、経営者としてやっている方は絶対的に男性が多いので、学生募集においてもパンフレットの写真をはじめ見せ方を変えて、男子学生が増やしていきたい。

<株式会社うえだ 上田様>

【学生支援】について、卒業生への支援体制は？以前、澤田先生より卒業後に仕事を辞めてしまった学生の次の仕事へのサポートをしている話を聞いた時に、どこまで学校としてサポートしているのかなと思ったこともありました。

<フラワー科 佐藤>

各科担任による対応になっており、現状システム化してマニュアル化ができていない。卒業後に連絡取れている学生は把握できるが、全く連絡取れていない学生に関しては把握できていないのが現状です。

<副校長 梅川>

卒業生の就職先に協力をいただきながら、卒業生アンケートを検討していく。卒業生のフォロー支援するためにも、卒業生アンケートをはじめ、卒業後3ヶ月内には卒業生訪問をし、状況を把握することが必要。訪問することで、現場の教育や人材需要を把握でき、卒業生を把握することが可能となるため、キャリアサポートセンターと連携して検討していく。ただ、卒業した数年後の卒業を把握していくには、昨年も話題に出たが、業界別に卒業生と今後も関係性を密にしていくためにも、卒業生が集まれるような場所を作って、情報交換等を出来るようにしていきたい。

<校長 菅原>

今年の1月2日に、アニメ科卒業生約50名で池袋にあるデジタル東京の向かいのホテルで、OB会を行い、様々な情報交換することができました。OB会を開催することで、情報交換だけでなく、パンフレットやホームページに掲載することで広報面での効果もあり、色々な意味で大きな相乗効果があった取り組みでした。

<副校長 梅川>

当校でいうと、フラワー科でOB会を検討していきたいと思います。東北6県の卒業生をはじめ、お世話になっているショップのオーナーも招待し、在学生も出席することで卒業生や企業の方々との交流の場を作ることができる。

<株式会社ハナサク 佐藤様>

業界的に求人はずれがあったりすることが多い中で、OB会のような場があり、その場に参加できるようなことがありましたら、ぜひご協力させてください。

<株式会社ハナサク 卒業生：加藤様>

今この地域ではこういう花が売れて、こういう売れ方がしているとか、色々な情報を交換することで自分の仕事に活かしたいです。情報交換はもちろんですが、クラスメイトと会えるのが今から楽しみです。

**【総括】**

貴重な意見をたくさんいただいたので、カリキュラムに反映させながら、実際に授業する中で活かしていくことが課題であると感じる。また、フラワー科OB・OGによる同窓会組織も、デジタルアーツ東京を参考に進めていきながら仙台での切り口として具体化させ、在校生だけではなく、卒業生の満足度をあげられるような学校運営に努めてまいります。